

東日本大震災に係る被害について

1 地震の概況

- (1) 発生日時 平成 23 年 3 月 11 日 (金) 14 時 46 分頃
 (2) 震央地名 三陸沖 (北緯 38.0 度, 東経 143.9 度 牡鹿半島の東約 130 km)
 (3) 震源の深さ 約 24 km
 (4) 規模 マグニチュード 9.0
 (5) 最大震度 震度 7 (栗原市)
 (6) 津波 7.2m (仙台港) 痕跡等から推定した高さ (4 月 5 日気象庁発表)

8.6m以上 (石巻市鮎川) 津波観測施設のデータ解析による
 (6 月 3 日気象庁発表)

※参考: 東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループによる推定

南三陸町志津川 15.9m 女川漁港 14.8m 南三陸町歌津 14.7m

- (7) 浸水概況 面積: 327 ヘクタール (県土の約 4.5%)
 世帯数: 約 11 万 7 千世帯
 事業所数: 約 2 万 5 千事業所 (従業者数約 22 万 3 千人)

2 被害・復旧の状況 (6 月 15 日現在・余震による被害を含む。)

- (1) 人的被害 (継続調査中) (単位: 人)

死亡者	安否不明者	重症	軽傷
9,151 人	4,742 人	356 人	3,105 人

- (2) 住家・非住家被害 (継続調査中) (単位: 棟)

全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	非住家被害
71,764	36,138	47,962	201	77	17,040

- (3) 避難の状況

区分	ピーク時 (3 月 14 日)	6 月 15 日現在
避難所数	1,183 施設 (35 市町村)	357 施設 (27 市町村)
避難者数	320,885 人	19,828 人

※被害の大きかった沿岸部の市町村を中心に, 3 月 28 日に応急仮設住宅建設着工

※建設必要戸数見込み: 22,809 戸, 着工戸数: 17,101 戸, 完成戸数: 12,117 戸

- (4) ライフライン関係被害

区分	ピーク時	6 月 15 日現在
電気 (停電戸数)	1,545,494 戸	121 戸
水道 (供給支障)	35 市町村	12 市町
ガス (供給支障)	13 市町	1 市

※電気 (停電戸数) は, 6 月 3 日現在

(5) 被害額の概要 (継続調査中) (単位：億円)

区 分	被害額	摘 要
交 通 関 係	50	鉄道, バス, 離島航路
ライフライン施設	1,144	電気, 水道, 都市ガス, 通信・放送施設
保健医療・福祉施設	329	医療機関, 社会福祉施設等
民間施設等	7,350	工業関係, 商業関係
農林水産関係	11,757	
公共土木施設・ 交通基盤施設	8,795	道路, 河川, 海岸, 港湾等
文教施設	1,976	公立学校, 私立学校, 文化財等
廃棄物処理・し尿 処理施設	20	
その他の公共施設等	678	観光施設, 庁舎, 消防・警察関係施設等
計	32,099	

3 教育関係の被害状況 (6月22日現在)

(1) 人的被害 (調査継続中) (単位：人)

区分 (公立学校)	幼児・児童・生徒		教職員	
	死亡	安否不明	死亡	安否不明
幼稚園	7	2	0	0
小学校	160	26	11	3
中学校	64	11	3	0
高等学校	75	12	1	0
中等教育学校	0	0	0	0
特別支援学校	5	0	1	0
計	311	51	16	3

(2) 施設被害 (調査継続中) (単位：校(施設)・億円)

区 分	校(施設)数	被害額	摘 要
県立学校	91	265	教職員宿舎2施設を含む。
市町村立学校	663	510	共同調理場45施設を含む。
社会教育施設	591	285	
文化財施設等	297	58	
国立学校施設	5	690	
研究施設等	5	14	
計	1,652	1,822	

(3) 県立学校等への避難状況 (単位：校(施設)・人)

区 分	校(施設)数	避難者数	校(施設)名
県立高等学校	5	496	気仙沼, 志津川, 石巻, 石巻好文館, 石巻北
社会教育施設	1	19	志津川自然の家
計	6	515	

4 県立高校等の状況

(1) 校舎の被害が特に大きい県立高校（別紙）

校舎の被害が特に大きい農業高校・気仙沼向洋高校と、ライフラインの復旧の目処が立たない水産高校・志津川高校については、隣接地区等の高校の施設を借用し、授業を再開した。

(2) 公立高校の転出入者数

（単位：人）

地区名	転入者数			転出者数			差
	県外	県内	計	県外	県内	計	
南部	15	1	16	1	1	2	14
中部南	34	7	41	5	1	6	35
中部北	27	16	43	11	1	12	31
北部（大崎，遠田）	6	4	10	1	0	1	9
北部（登米，栗原）	3	16	19	1	0	1	18
東部（石巻，飯野川）	1	4	5	29	14	43	△38
東部（本吉）	1	5	6	16	37	53	△47
全 県	87	53	140	64	54	118	22

※5月1日時点の調査

(3) 高校卒業予定者の就職内定状況

（単位：%・人）

区 分	平成23年3月末 (平成23年5月末)	前年度 同 期	就職内定取消しの状況		
			平成23年3月末	5月末	
宮城県	87.6 (90.5)	90.9 (93.8)	内定取消し	100	153
			採用繰下げ(自宅待機を含む。)	549	133
			その他(配置転換等)	37	13
全 国	93.2	91.6	—		

※国立，公立，私立を含む。

※全国値は震災の影響により調査が困難な学校を除外

5 県立高校の復旧，生徒への主な支援

(1) 高校の人的体制の確保

- ・他の都県からの教員派遣の受入や臨時講師の追加配置による体制の強化
- ・生徒の心のケア，学校教育活動の復旧などのため緊急学校支援員を配置

(2) 生徒の就学支援

- ・転学などの生徒受入の弾力化，転学手続きの簡素化
- ・被災した生徒への教科書，教材，学用品の給付
- ・被災した生徒の入学選抜料（第2次募集），寄宿舎料及び入学金の免除
- ・被災した生徒の奨学金の償還猶予，貸付手続きの簡素化
- ・学校再開のため校舎移転を余儀なくされている県立高校（4校）への通学バスの運行（6/1現在 1,024人が利用）

(3) 生徒の心のケア

- ・スクールカウンセラーの長期的・継続的な派遣
- ・被害の特に大きかった石巻地区，本吉地区，名取・亶理地区の学校（17校）に，通常配置のカウンセラーに加え，緊急派遣カウンセラーを派遣（8名 7月まで）

(4) 被災者教育相談フリーダイヤルの開設（4/1～5/31）

(5) 雇用の確保

- ・在校生及び卒業生の就職支援のため，キャリアアドバイザー等（全校）及び就職支援推進員（10校）を配置
- ・就職未内定・内定取消しの卒業生を県立学校等の臨時職員として採用（6/15現在 46人）

(別紙)

校舎の被害が特に大きい県立高校の状況

		農業高校 (名取市)	水産高校 (石巻市)	気仙沼沼洋高校 (気仙沼市)	志津川高校 (南三陸町)
課程 学科	課程	全日制	全日制	全日制	全日制
	学科	農業科	水産科, 工業科	水産科, 工業科	普通科, 商業科
校舎	現在の状況	○柴田農林高校, 亶理高校, 加美農業高校において授業を実施	○石巻北高敷地内の仮設校舎を利用して学校を実施	○気仙沼西高校, 本吉響高校, 米谷工業において授業を実施	○登米高校, 上沼高校において授業を実施
	今後の対応	○宮城県農業・園芸総合研究所(名取市)敷地内に仮設校舎を設置・移転(平成23年9月を目処)	○校舎の整備の完了, 周辺地域の地盤沈下に伴う冠水対策が完了した段階で復帰	○気仙沼高校第二運動場内に仮設校舎を設置・移転(平成23年11月を目処)	○校舎の整備の完了, ライフラインが復旧した段階で復帰
生徒	生徒数 (H23.5.1現在)	689人	404人 そのほか, 専攻科14名	344人 そのほか, 専攻科11名	389人
	出身市町 (H22年度入学生)	○仙台市 70% ○名取市 23%	○石巻市 72% ○女川町 8%	○気仙沼市 96% ○南三陸町 4%	○南三陸町 89%
	卒業後の状況 (H21年度卒業生)	○H21年度卒業生213名 ○四大・短大進学24名, 各種・専門学校68名, 就職95名	○H21年度卒業生135名 ○四大・短大・専攻科進学25名, 各種・専門学校20名, 就職89名(水産関係48名)	○H21年度卒業生116名 ○四大・短大・専攻科進学9名, 大学校・高技専18名, 各種・専門学校21名, 就職65名	○H21年度卒業生125名 ○四大・短大進学29名, 各種・専門学校36名, 就職54名
沿革	M18 第一種農学校として文部省認可 M18 宮城農学校(農学科・獣医学科) S23 宮城県農業高校定時制として中心校, 岩切・高砂・広瀬・秋保の分校 S35 全日制募集 H17 創立120周年記念式典 H21 秋保校閉校	M29 牡鹿郡簡易水産学校として設立 S23 宮城県水産高等学校に改称 漁業科, 水産製造科, 水産増殖科 S38 無線通信科新設 H12 海洋総合科, 情報科学科の2学科 H15 宮城丸竣工 H18 創立110周年記念式典	M34 気仙沼町立水産補習学校設置 T10 県立水産講習所として移管 S20 宮城県気仙沼水産学校 S23 宮城県気仙沼水産高等学校に昇格 H6 宮城県気仙沼沼洋高等学校に改称 情報海洋科, 産業経済科, 機械技術科の3学科 H13 創立100周年記念式典	T13 町立志津川実科高等女学校として設立 S6 町立志津川高等女学校 S23 宮城県志津川高等学校に改称 S44 商業科新設 H8 情報ビジネス科へ学科改編 H15 連携型中高一貫教育開始	
特記事項	○寮があり, 1年生全員に入寮義務(期間は, 農業科・園芸科・生活科は半年, 農業機械科・食品化学科は5日間) ○希望者は通年で入寮可 ○H22年度子どもの読書活動優秀実践校(文科大臣表彰)	○全国有数の食品(缶詰)製造棟は, 水産高校初のHACCP認定 ○海洋総合科1年次に「水産基礎」として, 海辺の生物学や, カッターボートでの漕艇実習	○情報海洋科の海洋類型は航海実習短期(5日間/東京・横浜・函館・熱海等)長期(45日間/ハワイ) ○産業経済科の食品開発類型は, サンマ缶詰実習, イチゴジャム・パン製造実習	○H15から連携型中高一貫教育を実施 ○連携事業として, 中高相互乗り入れ授業(英数), GRTテストの実施・分析, 進路情報交換, クリーンアップ作戦, 行事・部活動・生徒会の連携	